維新左京レポート Vol.1

発行元 日本維新の会 京都府総支部
〒600-8418
京都市下京区烏丸通万寿寺上ル
五条烏丸町401 オーク烏丸第二ビル5F
075-353-1112 075-353-1128
ishinkyoto@titan.ocn.ne.jp http://j-ishin-kyoto.jp/

日本維新の会 京都府総支部 左京区 市政対策委員に 宇佐美（うさみ）けんいちさんが選出されました。

日本維新の会 代表 橋下徹

宇佐美けんいちさんプロフィール

生年月日
昭和45年10月11日

血液型
A型

趣　味
ツーリング･釣り･食べ歩き

モットー
こうなったらいいなを見逃さず
世の中におせっかいでいたい

経　歴
- 平成 6 年　京都大学法学部卒
- 平成 6 年　三菱重工業入社
- 平成17年　㈲ウサミ商会 代表取締役
- 平成22年　行政書士資格取得
- 平成23年　市議選に立候補
- 平成24年　維新政治塾一期生修了

所属団体・ボランティア活動
左京消防団 松ヶ崎分団 / 京都市左京少年消防クラブ
京都ZEROワイズメンズクラブ / 松ヶ崎小PTA会長（平成24年度）

宇佐美けんいちさんの毎日の活動がtwitterなどで発信されています。
インターネットでもみなさまのお声を丁寧に聞き、今後の政策や政治活動に反映されております。

- 宇佐美けんいち公式サイト http://usamikenichi.jp/
- 宇佐美けんいち公式ブログ http://blog.livedoor.jp/usamikenichi/
- Twitter @usamikenichi
- facebook https://ja-jp.facebook.com/kenichi.usami3

今号特集 全ては輝く都の未来の為に ～しがらみなく前へ進む政治を！～

1.将来を見据えた筋肉質の市役所･財政の実現
2.住民の声がしっかり届く身近な自治体行政制度の確立

宇佐美けんいちさんインタビュー

日本維新の会京都府総支部左京区市政対策委員に選出された宇佐美けんいちさんにお話を伺いました。

宇佐美けんいちさんは、小学生、中学生の子どもを持つ親として、また、子育て世代の代弁者として、京都のいいところをしっかり次世代に繋げていきたいと考えておられます。そのためには、府内最下位となった京都市の財政健全度を回復すること、市民の皆さんの声がしっかり届く市役所の組織改革、意識改革がかかせないとのお考えです。

この数年で、京都市は神戸や大阪にも財政健全度で大きく引き離されてしまっています。このことに対し宇佐美さんは、

「もし、京都の人々が神戸や大阪よりいい加減であったら仕方のないことかもしれません。でも、私は、地域の団体の皆さんの思いやり、地域に根付く中小企業の頑張り、ＰＴＡ・おやじの会に取組む保護者の熱意、ＮＰＯ等で社会の課題に向き合う若者の姿を見て、決して他に負けていない、むしろ、もっともっと熱心で意識が高いと感じております」

とし、ひとえに政治の責任であると考えておられます。

「時代が変わる時、京都は新しい文化や技術を学び取り入れ進化を続けてきました。お金『無い無い』行政から、お金を生み出す行政に変える。まさに今がその時です」

宇佐美けんいちさんは、京都市の現状を真正面からとらえ、お知らせし、ご意見をしっかり聞き、「しがらみ」にとらわれず市政に取り組みたいと考えておられます。「こうなったらいいな」を見逃さず、世界に輝く都の未来を目指し活動をされています。

京都の未来のため、皆さまお一人お一人のご支援とご協力が、日本維新の会の政策実現の力となります。

日本維新の会 京都府総支部

代表	幹事長	政務調査会長	総務会長	幹事	会計監査(監事)	幹事	幹事
田坂 幾太	**清水 鴻一郎**	**豊田 貴志**	**三原 和久**	**畑本 久仁枝**	**高味 孝之**	**秋月 新治**	**澤田 長利**
衆議院京都府第１選挙区支部長	衆議院議員 衆議院京都府第3選挙区支部長	京都府議会議員 京都市山科区支部長	精華町議会議員	衆議院京都府第４選挙区支部長	木津川市議会議員 木津川市支部長	宇治市議会議員 宇治市支部長	京都維新塾事務局長

全ては輝く都の未来の為に

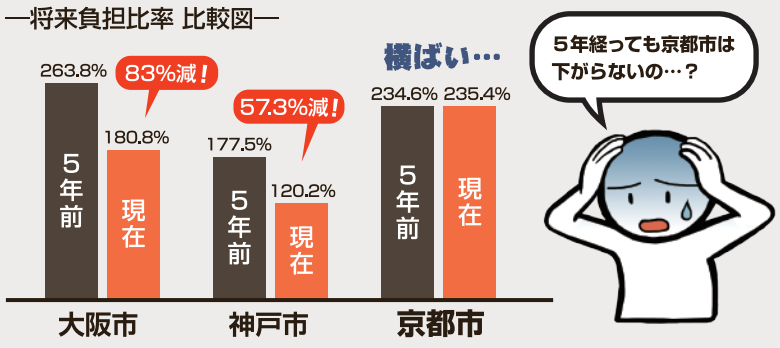
～しがらみなく前へ進む政治を！～

1 将来を見据えた 筋肉質の市役所・財政の実現

京都市よ目を開け！

「将来負担比率」とは、市の借金等の額がその市の財政規模に比べてどれくらい大きいかを示す健全度指数です。身の丈にあった経営かどうかがわかります。
お隣の大阪市が180%、神戸市が120%に対し、京都市は235%と財政規模の倍以上で、京都府下で最悪に転落しました。
さらに、５年前と現在とで京都市の「将来負担比率」は横ばいの中、他都市では毎年改善傾向が続いています。
このままでは、住みよい自治体としてあるべき教育や福祉サービスが達成できない、また社会インフラの健全な発展も阻害されてしまうのではないでしょうか。

―将来負担比率 比較図―



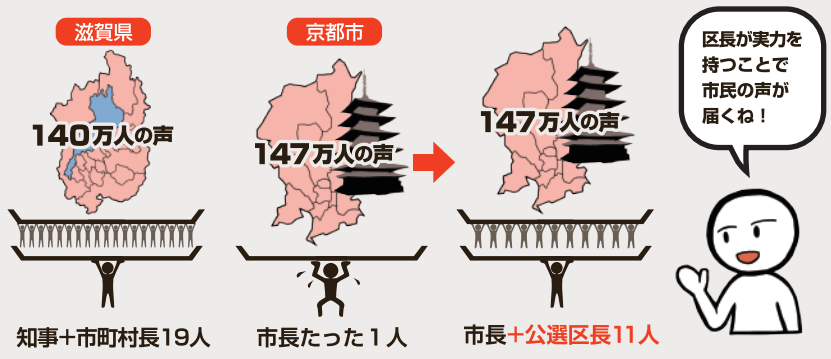
同じ質ならよりコストの安いものを、同じコストならより質の良いものを選ぶ、また事業の採算性を「つくる前に」議会と市民に報告する当たり前の感覚を徹底する。
また京都市だけでは達成できない向上策については、府内人口の５割以上を占める京都市が中核となって周辺市町村、京都府、また国を巻き込んで検討を進めるようなダイナミックな視点での自治体改革をしがらみの無い立場で目指す。
そうやって、皆さまから付託された税金を上手に大事に使う精神を徹底し、余ったお金を教育・福祉の充実に回す。
その健全な上昇気流に京都市をのせていきたいと考えます。

2 住民の声がしっかり届く 身近な自治体行政制度の確立

今は市民の声が市長に届かない!?

行財政を見直すには、役所や政治家だけではなく、京都市民のみなさんの生活者としての声が必要です。お気づきの点、アイデア、民間のセンスをもっとダイレクトに行政に反映できる仕組みづくりが欠かせないと考えます。
ですが、今、京都市は１４７万人の市民に選挙で選ばれた首長はたった１人です。お隣の滋賀県は１４０万人の県民に知事が１人に市町村長が１９人です。
首長１人が１４７万人に賛同を求めるようなスケールの政治では細かな動きが難しく大味になってしまいます。
市民のみなさんが、どこに相談にいっていいかわからない、相談をしても聞いてもらえないといったことが起こり得ます。

そこで、京都市には１１の行政区がありますが、それぞれの区を重視して独自の住みよさを目指す、独自の産業・観光づくりに光を当てていくことが大事と考えます。
そのためには、もっと住民が直接参加できる区の組織、独自の区政の実行の為、財源・権限を区役所に渡すことが必要です。
新たに法律で誕生する総合区制度を取り入れ２年や３年でコロコロ変わる区長ではなく、良い人なら何年も続けられる区長制度に変え、住民と対話し腰を据えて共にまちづくりを行う身近で小回りのきく行政を目指したいと考えます。
選挙で区長を選出できる仕組みが望ましいと考えますが、これには国の法改正が必要です。国政政党として国への働きかけを行っていきたいと考えます。



京都市は、日本の輝く都として、住民がいきいきと活気あふれる街、もうここにしかない文化を未来へとつないでいく街、そして日本中・世界中の人たちから愛される街でありつづけることが大事だと考えています。
次の１００年に向けた取り組み、その先も京都で有り続けるための取り組み。
子どもたちに、やっぱり京都でよかったといってもらえるように。
前へ進む政治を実現してまいりたいと考えます。

行政改革は、
現役世代の教育・福祉環境の充実へ